

SDGsを身近に捉える

米沢工業高等学校定時制 高橋英路

1 目的

SDGsに限らず、高校地理で扱う内容が「どこか遠い国の話」として捉える生徒が多い。少しでも身近なものとして捉え、自分事として考える習慣をつけてほしいと考えた。

2 授業の流れ

(1) 世界の教育について知ろう①

「世界一大きな授業（JNNE教育協力NGOネットワーク）」を活用し、世界の教育事情についてクイズやワークショップを行った。生徒は文字が読めない人の多さに驚き、文字が読めないことで「私たちが当たり前のように送っている日常生活が何もできなくなる」といった声が聞かれた。

課題を解決するために必要な援助額（4兆円）と世界のゲーム市場（6兆7000億円）、軍事費（217兆円）のそれぞれの規模の大きさを表すテープ（それぞれ40cm、67cm、22m）を用意し、封筒に入れた状態で生徒にそれぞれ引き出させた。22mは教室に収まりきれず、廊下に出てその規模の大きさを感じることができ、「おお、すごい！」「こんなに！？」といった声が聞かれた。

(2) 世界の教育について知ろう②

前時を踏まえ、その解決のために活動するマララ・ユスフザイさんを紹介した。写真を見せた段階で、顔だけは知っているという生徒もいた。ノーベル賞授賞式でのスピーチを読み、なぜ声を上げようと思ったのか、感じたことを記述させ共有した。また、同じく子どもの問題に子どもが取り組む日本の団体である「フリー・ザ・チルドレン」を紹介し、感じたことを共有した。教育に関する課題には何となく気づいていた生徒もいたものの、それに対して自分たちと同じ年代の子どもが行動を起こしていることに驚いていた。

生徒からは「子どもだからこそできる！という考えもあるが、子どもだからできないことも多いのが現実なのに、それでもこうした活動をやってみようとしたことが素晴らしい」「こうした活動が世界にどんな影響を与えるのか、わくわくする」といった感想が出た。

(3) SDGsとは？

「持続可能」「持続不可能」というイメージがわかりやすいように、「持続可能」「持続不可能」なことについて、自分の身近な事例から考えさせた。「ゲームは1日1時間以内に制限」は持続不可能だが、「ゲームをした後、温めたタオルを目の上に乗せる」のは持続可能といった例が出された。

次に、現代の社会における「持続可能」「持続不可能」と思えることの例をあげさせた。生徒からは、「高齢化が進む中での介護の問題」「AIの登場した後の先生という職業」は持続不可能、「クリエイティブな仕事」「他国と交流しながら何かを作ること」は持続可能といった例が出た。

その上で、SDGsの存在を説明し、世界でも持続可能な開発というものが注目されていることを伝えた。

(4) SDGsを身近に考えよう

前時にあげた「持続可能」「持続不可能」の例について、SDGsとの関連を考えさせた。例として「朝昼晩、毎回20分以上かけて歯磨きする」という「持続不可能」な例は、SDGsのどのゴールを妨げるかを考えさせた。「ゴール8の経済成長に関連し、歯磨きに時間が取られすぎて仕事の時間にも影響し、経済

活動が停滞する」といった意見が出た。

同様に、自分の考えた例や、持続可能な例についても考えさせた。例えば「毎日ダンベル 300 回する」という「持続不可能」な例は、「ゴール 3 の健康に関連し、やり過ぎて体を壊し、無駄な医療費を使ってしまい、本当に必要な人の医療にかけられない」。逆に、「毎日ダンベル 100 回する」という「持続可能」な例は、「ゴール 3 の健康に関連し、体が鍛えられてケガ予防になり、無駄な医療費を使わず、本当に必要な人に医療を提供できる」といった意見が出た。

こうした作業を踏まえ、学校生活における行動で SDG s と関連する事柄を考え、「ひとこと多い張り紙 (JANIC 提供)」を作る下準備をさせた。「授業はしっかり受ける」がゴール 9 「産業と技術革新の基盤をつくろう」に関連し、「授業を受けることでいろんな技術が身につく」などといった記述が見られた。

(5) 山形を元気にするプランを SDG s の視点から

前回の最後の作業を踏まえ、「ひとこと多い張り紙」を作成した。

秋頃の授業で「山形県を元気にするには？」という学習を行い、生徒たちがプランを考え、それを 1 枚のチラシにまとめ発表し合った。そのプランを用いて、SDG s の視点から考えたとき「SDG s のどのゴールに近づくか?」「さらに一工夫加えることで、どのゴールに近づくか?」といったことに取り組ませた。前者の問いに対しては考えることができたが、後者は時間が足りずにほとんど考えられず残念だった。